

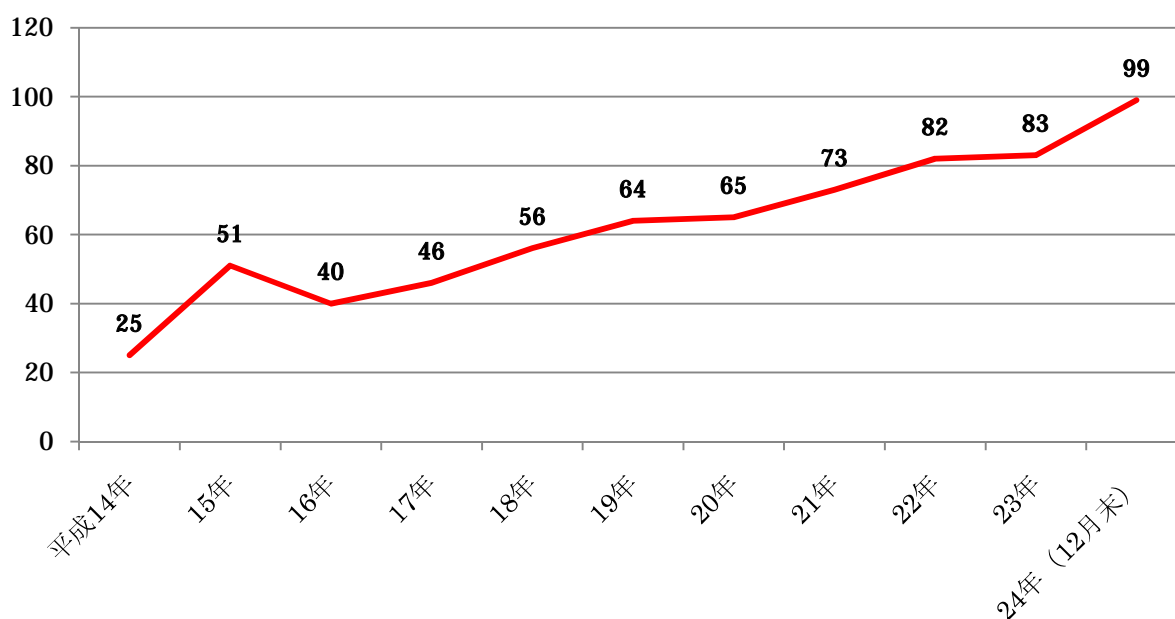
社会福祉施設の事業主、労働者のみなさまへ

1. 社会福祉施設における労働災害発生状況

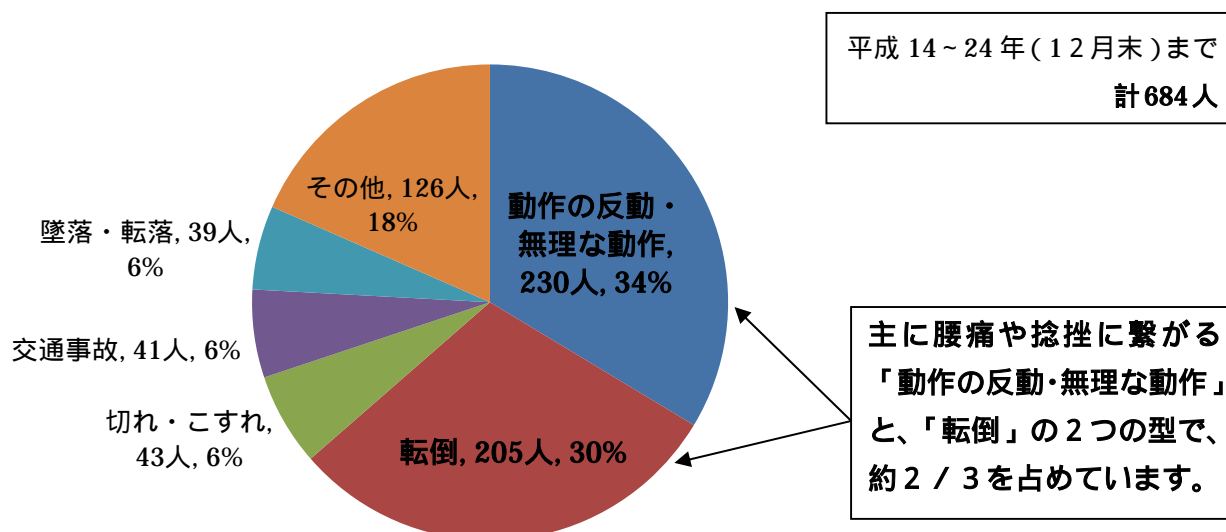
岡山県における休業4日以上労働災害は長期的には減少しており、平成21年には過去最少の1,819人となりました。しかしながら、平成22年以降は増加に転じ、平成24年についても12月末の速報値で1,843人と、平成23年同時期(1,797人)よりも2.6%増となっており、3年連続して労働災害が増加することが確実な状況となっております。

また、社会福祉施設においては年々増加しており、平成24年は12月末時点で23年1年間の人数を超え、また平成14年の4倍となる100人に迫る状況となっております。

「社会福祉施設」の労働災害発生状況



「社会福祉施設」の労働災害(事故の型)の内容



2 . 介護・介助作業における「腰痛」を防止するために

「腰痛」の災害事例

- 車いすの利用者を自宅まで運び、車いすから部屋に運ぼうと抱えたところ、腰を痛めた（単独作業）。
- 入浴介助中、被介助者の体位交換をするため、前屈みになり力を入れたところ、腰を痛めた（単独作業）。
- 2人で利用者を布団に運ぶため、同僚が上半身、被災者が脚を持って持ち上げようとした際、腰を痛めた（複数作業）。

職場における「腰痛」は 動作的要因、 環境要因、 個人的要因が複合的に関与しているといわれております。

作業姿勢と動作	介護・介助作業では、前かがみ・中腰での作業や腰のひねりを長く保つ作業が頻繁に出現することから、適宜小休止・休息を取る、他の作業と組み合わせる等により同一姿勢を長時間続けないようにさせること。
作業標準	使用する機器・設備、作業方法などの介護・介助の実態に応じた作業標準（仕事を行う上での手順や決めごと）を作成すること。
介護者の適正配置	職員の数、施設の構造、勤務体制、介護内容及び利用者の心身の状況に応じて適正なものとする。
施設及び設備の構造の改善	適切な介護設備、機器等の導入を図ること。 介護・介助に関連した業務を安全に行うための設備（部屋の構造、浴槽の構造、ベッドの構造、付帯設備や休憩室等）を整えること。

* 雇入時・作業転換時に腰痛予防も盛り込んだ安全衛生教育を確実に実施するとともに、腰痛予防体操を実践しましょう。

* 平成 24 年の「動作の反動・無理な動作」による災害の内、入浴等介助に伴う単独での移乗作業中の腰痛等が約 3 割を占めています。移乗作業は複数で行うようにしましょう。

3 . 「転倒」災害を防止するために

「転倒」災害の事例

- 食事を両手に持って配膳中、床が濡れていることに気付かず、足を滑らせ転倒した。
- 厨房でヤカンを持って移動中、床においてあったバケツに躓いて転倒した。
- 朝出勤の際、職員用駐車場の路面が凍結しており足を滑らせて転倒した。
- 利用者を車から降ろす際、利用者が車のステップを踏み外して転倒し、下で支えていた被災者と一緒に転倒した。

* 「整理」「整頓」「清掃」「清潔」(4S活動と呼ばれています)を職場で推進し安全で衛生的な作業場所・通路を確保しましょう。

「整理」

必要な物と不要な物を分けて、不要なものを処分すること
責任者を定め定期的にチェックし、また4Sの意識付けをさせるためにも、全員で整理を行いましょう。

「整頓」

必要なときに必要な物をすぐに取り出せるように、わかりやすく安全な状態で配置させること
場所毎の担当者を定め、置き場所・置く物・置き方など、取り出しやすく、しまいやすい置き方にしましょう

「清掃」

身の回りをきれいにして、衣服や廊下のゴミや汚れを取り除くこと
作業スペースや通路が濡れていると滑りやすくなるので清掃を励行しましょう。

「清潔」

整理・整頓・清潔を繰り返し、衛生面を確保し、快適な職場環境を維持すること

* 施設に「転倒」災害につながる危険な箇所はないか確認し、改善をすすめましょう。

* 慌てていたり、小走りで移動中の「転倒」災害も多く発生しています。労働者の安全教育により行動災害を防ぎましょう。

4 . 全員参加で安全点検を！

施設内の危険な箇所や不安全作業などを洗い出し、労働災害防止意識の高揚、安全な職場環境の推進を図るため、毎月1日(又は特定の日)を「安全点検の日」と定め、全員参加で安全点検を行いましょう。点検表の例を4頁に示します。

毎月1日は安全点検の日 全員参加で定期的に点検を行い労働災害を防止しましょう

安全衛生点検表（例）

事業者の点検事項

通路・階段・作業床について、つまずきを防止するため、床面の凹凸をなくし、床面の損傷を補修するとともに、「整理」「整頓」していますか。	はい	いいえ
「清掃」「清潔」を励行し、床面の水や油が認められる場合はよく拭き取る。滑りやすい個所にマットを敷く等の対策をとっていますか。	はい	いいえ
通路は適切な幅を確保して安全通路であることを表示していますか。	はい	いいえ
通路・階段・作業場の適切な位置に照明を設け、照度を確保していますか。	はい	いいえ
危険箇所を把握し、危険個所の改善を図ったり、注意すべき事項を掲示する等により関係労働者に周知していますか。	はい	いいえ
冬季に凍結のおそれのある場合は労働者への注意喚起、凍結危険箇所への措置を行っていますか。	はい	いいえ
雇入時・作業転換時に、腰痛予防など安全衛生教育を実施していますか。	はい	いいえ
介護・介助等作業の実態の応じた作業標準を作成していますか。	はい	いいえ
介護・介助等作業を安全に行うための設備の整備に努めていますか。	はい	いいえ
移乗作業は複数で行うようにさせていますか。	はい	いいえ

労働者の点検事項

履物は滑りにくいものとし、服装は作業に適したものを着用していますか。	はい	いいえ
ポケットに手を入れたまま、歩かないようにしていますか。	はい	いいえ
前方や足元が見えないほどの大きさの荷物を持たないようにしていますか（台車等の使用）。	はい	いいえ
階段の昇降においては、走らず、一段飛ばしをせず、手すりを掴んで昇降していますか。	はい	いいえ
転倒のおそれのある危険個所や注意点を常に意識して歩行していますか。	はい	いいえ
介護・介助等作業の際は、基本となる作業姿勢、動作を守っていますか。	はい	いいえ
移乗作業は複数で行うようにしていますか。	はい	いいえ
4S（整理・整頓・清掃・清潔）に心がけていますか。	はい	いいえ